

# 肝炎インターフェロン医療費助成期間延長となる

鳥取県肝炎対策協議会

鳥取県健康対策協議会肝臓がん対策専門委員会

- 日時 平成21年2月14日（土） 午後2時30分～午後4時
- 場所 倉吉未来中心「セミナールーム1」 倉吉市駄経寺町
- 出席者 村協協議会会長、川崎専門委員会委員長  
(22人) 秋藤・安藤・石飛・大城・岸本・孝田・永見・野坂・廣岡・藤井・  
前田・松木・松田哲郎・松田裕之・満田・宮崎・吉中各委員  
県健康対策課：下田副主幹  
健対協事務局：岩垣係長、田中主事

## 【概要】

鳥取県肝疾患診療拠点病院等の役割を明確にするために、「鳥取県肝臓がん抑制対策評価委員会設置要綱」を「鳥取県肝炎対策協議会設置要綱」に改正した。

鳥取県肝疾患診療拠点病院に『鳥取大学医学部附属病院』が選定された。鳥取大学医学部附属病院の承諾を得た上で、今後、厚生労働省への協議を行い、年度内を目途に県が鳥取県肝疾患診療拠点病院として指定することとなった。

## 挨拶（要旨）

〈村協協議会会長〉

今年度からインターフェロンの医療費助成が始まりました。また、本日の議題でもある肝疾患診療ネットワークの構築について、ご協議の程よろしくお願い致します。

〈川崎対策専門委員長〉

鳥取県肝炎対策協議会が中心となって、鳥取県の肝臓がん検診、肝炎対策等を今後検討していきますので、よろしく申し上げます。

## 報告事項

### 1. 平成19年度肝炎ウイルス検査実績最終報告並びに平成20年度事業実績見込み及び平成21年度実施計画について：下田県健康政策課がん・生活習慣病担当副主幹

(1) 平成19年度基本健康診査における肝炎ウイルス検査

平成19年度は17市町村で実施し、対象者数71,197人のうち、受診者数は5,672人で、受診率は8.0%で、平成18年度に比べ、受診者数が2,030人、受診率が9.7ポイント減少した。米子市はこの事業が平成18年度で終了するであろうとして受診勧奨を行い、平成18年度は受診者数が多かったが、平成19年度はその反動で受診者数が大幅に減少した。

残りの2町については、単独事業で肝炎ウイルス検査が行われている。

検査の結果、HBs抗原のみ陽性者は104人、HCV抗体のみ陽性者は36人で、HBs抗原陽性率1.8%、HCV抗体陽性率0.6%であった。前年度とほぼ同様の結果であった。

要精検者140人のうち精検受診者は90人であり、精検受診率は64.3%で、平成18年度に比べ12ポイントも増加した。精検の結果、がんは1人も発見

されなかったが、がん疑いは3名であった。がん疑い3名について確定調査した結果、2名は肝臓癌であった。

(2) 肝臓がん検診により発見されたウイルス陽

性者に対するの定期検査の状況について（県事業の肝臓がん対策事業）

平成10年度から実施している、検診で発見された肝炎ウイルス陽性者に対する定期検査は14市町村で実施された。結果は以下のとおりである。

区 分	健康指導対象者 (人)	定期検査受診者数 (人)	定期検査結果			
			慢性肝炎	肝硬変	肝臓がん	がん疑い
B型肝炎ウイルス陽性者	1,395	625	103 (16.5%)	11 (1.8%)	6 (1.0%)	3 (0.5%)
C型肝炎ウイルス陽性者	997	570	281 (49.3%)	36 (6.3%)	10 (1.8%)	8 (1.4%)

※肝臓がんと報告された中には、過去の定期検査で「がん」と報告されたものも含まれている。

未実施の5町について、状況を聞き取りしたところ、1町については、「定期検査フォロー事業は一段落したと認識。「新規陽性者はいないため健康指導対象者の台帳は整理していない」との回答。また、その他の町についても、「定期検査フォローの必要性は理解できるが、人手不足等のため実施できない」との回答であった。

(3) 平成7～19年度の13年間を集計すると、平成7～9年度の検診時において、市町村から報告のあった対象者数192,315人に対し、受診者数107,375人、推計受診率55.8%である。そのうちHBs抗原陽性者は2,660人（2.48%）、HCV抗体陽性者は3,498人（3.26%）であった。HCV抗体陽性率は60歳以上が高く、HBs抗原陽性率は40～54歳が高い傾向は例年と同様であった。

(4) 平成20年度実施見込み及び平成21年度実施計画について

平成20年度の受診予定数は国庫事業の肝炎ウイルス検査は17市町村実施で4,021人、市町村単独事業は6町実施し483人である。

平成21年度実施計画は国庫事業の肝炎ウイルス検査は17市町村実施で4,634人、市町村単独事業は5町実施で435人である。

未実施の2町は県の事業として保健所、医療機関肝炎ウイルス無料検査が行われているので、国庫事業の肝炎ウイルス検査は実施しないということだった。

2. 平成19年度肝臓がん検診発見がん患者確定調査結果について：松田裕之委員

(1) 平成19年度肝炎ウイルス検査から発見されたがん疑いについて確定調査した結果、肝臓癌は2名だった。また、肝臓がん検診により発見されたウイルス陽性者に対するの定期検査の結果、がん及びがん疑いの者が26名発見され、そのうち10名は過去の検診、定期検査で既にごんと診断されていた。残り16名の確定調査を行った結果、B型肝炎ウイルス陽性者から肝臓癌が3名、C型肝炎ウイルス陽性者から肝臓癌が5名であった。調査中のものが1件ある。

(2) 平成7年～18年度肝臓がん検診発見がん患者のうち、21例が確定癌であり、そのうち17例は死亡、生存中の4例のうち、1例は10年1ヶ月後、1例は3年後に再発した。また、平成10～18年度定期検査確定がんが73例で、そのうち35例（他病死を含む）が死亡である。

調査票に肝炎治療の項目を追加してはどうかという意見があり、インターフェロン、抗ウイ

ルス薬治療等について記載してもらう。

## 協議事項

### 1. 医療機関委託無料肝炎検査の平成20年度中間報告と平成21年度の実施について

平成20年度肝炎無料検査の中間実績は、保健所ではB型肝炎検査490件、C型肝炎検査505件、合計995件、医療機関においてはB型肝炎検査1件、B型肝炎検査+C型肝炎検査39件であった。

医療機関委託の無料肝炎ウイルス検査については、平成20年度限りの時限措置であったが、現在もなお肝炎ウイルスの感染に対し不安を感じる方が多いので、肝炎ウイルス検査の受診しやすい体制確保のため、平成21年度を実施する予定。また、保健所でも継続実施の予定である。

### 2. 肝炎インターフェロン医療費助成の平成20年度中間報告と平成21年度の制度改正について

平成21年1月末で244人が肝炎インターフェロン受給者として認定されている。受給者244人のうち、約98%がC型肝炎で、50歳～70歳代が約87%を占めている。

平成21年度より制度が以下のとおり改正される。

- (1) 助成期間は原則1年間であったが、一定の条件を満たし、医師がペグインターフェロン及びリバビリン併用療法の延長投与（72週投与）が必要と認める患者について、助成期間の延長を認める。
- (2) 自己負担限度額は所得階層区分の認定で、住民票上の「世帯」を原則としつつも、税制上・医療保険上の扶養関係にない者については、例外的な取扱い（課税額合算対象から除外）を認める。

### 3. 肝疾患診療ネットワークの構築について

前回の会議の結論を受けて、鳥取県肝疾患診療拠点病院等の役割を明確にするために、「鳥取県肝臓がん抑制対策評価委員会設置要綱」を「鳥取

県肝炎対策協議会設置要綱」に改正した。

平成21年1月22日に鳥取県肝炎対策協議会が開催され、以下のことが決定した。

(1) 鳥取県肝疾患診療拠点病院の選定が行われ、協議の結果、『鳥取大学医学部附属病院』が選定された。

鳥取大学医学部附属病院の承諾を得た上で、今後、厚生労働省への協議を行い、年度内を目途に県が鳥取県肝疾患診療拠点病院として指定することとなった。

(2) 「鳥取県肝疾患専門医療機関」の選定方法等についての協議がなされ、「肝臓がん検診精密検査登録医療機関」に対し、登録の希望、肝疾患診療状況等の調査を行った結果にもとづいて、鳥取県肝炎対策協議会で選定することとなった。

「鳥取県肝疾患専門医療機関選定要領（案）」が示され、次回の会議で協議することとなった。

### 4. 平成21年度におけるがん検診受診率向上に向けた県の取り組みについて

鳥取県がん対策推進計画の受診率目標50%に対し、平成19年度受診率27%で、職場や家庭内で多忙な40～50歳の検診受診率が低い傾向にある。そのため、県健康政策課においては、平成21年度事業として「がん検診受診率向上プロジェクト2009～新規受診者を掘り起こせ！～」として、休日がん検診支援事業や県民フォーラムなどを計画している。

平成21年3月1日は米子市文化ホールにて消化器がん検診をテーマに「市民公開講演会」が開催される。

### 5. その他

委員会（協議会）の第1回目会議が開催される時期は、前年度検診実績の最終的な結果が出ていないことから、今後の第1回目会議では、会議前年度の問題点と次年度事業実施に向けての協議事項を中心とした会議し、第2回目会議については、

従来どおり前年度検診実績及び協議事項について  
議論を行う方向で平成21年度の委員会より行うこ

とが示された。

## 肝臓がん検診従事者講習会及び肝臓がん検診症例研究会

日 時 平成21年2月14日（土）  
午後4時～午後6時

場 所 倉吉未来中心「セミナールーム3」  
倉吉市駄経寺町

出席者 106名  
（医師：100名、看護師・保健師：5名、  
検査技師：1名）

吉中正人先生の司会により進行。

### 講 演

鳥取県肝炎対策協議会長 村脇義和先生の座長

により、福山市民病院がん診療統括部長 坂口孝  
作先生による「肝細胞癌の診断と治療」の講演が  
あった。

### 症例提示

石飛誠一先生の進行により、3地区より症例を  
報告して頂き、検討を行った。

1) 東部（1例）－

鳥取赤十字病院 満田朱理先生

2) 中部（1例）－

鳥取県立厚生病院 万代真理先生

3) 西部（1例）－山陰労災病院 西向栄治先生

## 肺がん疑いに対するフォロー指針の確立に向けて

鳥取県成人病検診管理指導協議会肺がん部会  
鳥取県健康対策協議会肺がん対策専門委員会

- 日 時 平成21年2月28日（土） 午後2時30分～午後4時
- 場 所 倉吉未来中心「セミナールーム1」 倉吉市駄経寺町
- 出席者 岡本健対協会長・清水部会長・中村委員長  
(22人) 天野・石井・工藤・杉本・陶山・谷口玲子・中本・引田・  
吹野・藤井・宮崎・山下・山家・吉田・吉中各委員  
県健康政策課：川本保健師  
健対協事務局：谷口事務局長、岩垣係長、田中主事

### 【概要】

・検診発見がん患者確定調査の結果、近年Ⅰ  
期肺癌が多く発見される傾向が続いてい  
る。予後調査においては、5年生存率は

47.1%、10年生存率は29.6%で、女性の方  
が予後は良かった。

・判定基準を見直した16年度以降、がん疑い  
と診断された者が多く見つかったが、